

日本知財学会 10 周年記念

日本知財学会発足 10 周年、心からお祝い申し上げます。発足当時、知財の重要性が広く認識されるようになり、高品質で低価格の製品輸出で経済成長を謳歌した我が国も、これからは製品ばかりでなくそのもととなる知的財産重視に移行しなければならないといわれるようになりました。しかし、当時を思い出しますと、それは法律の専門的世界で扱われ、知識を創る科学技術研究や製造現場で働く人々にとってはどのような戦略で取り組むのかはよくわからないという状況であったかと思えます。日本知財学会は、そのような状況から離陸して、知識の創造、保全、使用を一貫して整合的過程として俯瞰的視点で認識し、知識の価値を現実のものとする体系を求めることを目標としたのであり、そのために科学技術の専門家と法律をはじめとする社会科学の専門家の協力により、出発したものです。

10 年がたち、その間の関係者の大きな努力によって立派な学会に育ち、査読付き論文誌の発行を通じて知財学の構築を生き生きと続け、大きな成果を上げておられることに深く敬意を表します。

知財学のように、多くの伝統的な領域が融合して成立する学問領域は、その運営がなかなか難しいものであります。いわば文化の違いと言語の違いを超えた協力であり、苦勞の多いものです。しかしながら、このような超領域的な学問が多く分野で必要になってきたのは現代の特徴であり、知財学会がその先端を開拓しながら着実に歩みを続けておられることは素晴らしく、これからも知財学の発展への貢献とともに、同じ課題を抱える学会の先頭に立って発展することを心から祈念するものであります。

平成 24 年 6 月 22 日 吉川弘之